



# いばらき

## 農業委員会だより

平成30年1月  
(創刊昭和50年11月)

### 第166号

編集・発行

茨木市農業委員会

茨木市駅前三丁目8番13号

Tel620-1677(事務局)

# 謹賀新年



新年明けましておめでとうございます。皆様にはご家族お揃いで、お健やかに新しい年をお迎えのこととお喜び申し上げます。旧年中は、農業委員会活動に格別のご高配とお力添えを賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は農業委員会が新体制へ移行し、農業委員14人、新設された農地利用最適化推進委員7人となりました。茨木市におきましては、制度改正により重点業務となりました農地利用の最適化の実現に向け、それぞれの地区ごとに農業委員と推進委員が二人体制で取り組んでいくこととなりました。

今後、農業者が高齢化し担い手が減少する中、耕作していない農地やこれから耕作できなくなる農地をどのように維持していくか、農業委員及び推進委員が調整役として担当地区の農業者の意向を把握し、将来の望ましい農地利用のあり方について話し合いを進めてまいりたいと思っております。

また、平成34年に全国の生産緑地の約8割が指定から30年を経過し、いつでも買取申出が可能となることから、昨年6月に改正生産緑地法が施行され、30年経過後、更に10年指定を延長する特定生産緑地制度が設けられるとともに、都市農地を保全していくため、市の条例を制定することにより生産緑地地区指定の面積要件を300㎡まで引き下げることが可能となりました。現在、茨木市におきまして、条例の制定について検討が行われております。

なお、都市農地の有効活用を図るため、今年の通常国会において、都市農地の貸借の円滑化に関する法律(案)が提出される予定であり、法律が施行されれば生産緑地地区の農地を貸借しやすくなります。併せて、農地を貸した場合でも相続税の納税猶予を継続できる税制改正が期待されておられ、その動向が注目されます。

このような新法の制定や税制改正の動きについて、農業者の皆様には理解を深めていただけるよう、茨木市農業協同組合と共催で説明会を開催したいと思っております。

今後とも農業委員会活動にご理解、ご協力をお願いいたします。新年最後になりましたが、皆様のご健勝とご多幸を心からお祈りし、新年のごあいさついたします。



茨木市農業委員会

会長 大上 眞明

## 新年のごあいさつ

## 農業者年金で 老後の生活を安心サポート!

農業者年金は、60歳未満の国民年金の第1号被保険者で、年間60日以上農業に従事している方が加入できます。

正式な手続きにより農地を借りている農業者、配偶者や後継者などの家族従事者も加入できます。

### 農業者年金の特徴

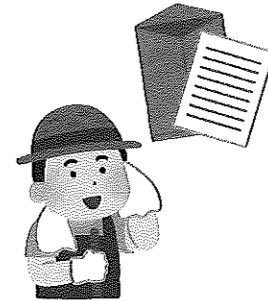
- 少子高齢時代に強い年金です。年金資産は安全性を重視して運用しています。
- 保険料は自分で選べ、いつでも見直しができます。
- 80歳までの保証がついた終身年金です。
- 税制面で大きな優遇があります。

詳しいことは、農業委員会へお問い合わせください。

農業委員会では、農地の権利移動許可等の法令業務を執行するための基礎資料として、また、遊休農地の発生防止、解消等の農地利用の最適化推進に向けた取組に農地台帳を活用しています。

この度、農地台帳に記録されている世帯の農業従事状況等について最新の情報を把握するため調査を行います。

2月上旬に、農地を所有されている方に調査票を郵送しますので、世帯員や耕作状況等について回答をお願いします。



ご協力をお願いします

農地台帳は、農地法第3条による農地の権利取得や農業経営基盤強化促進法による農地の貸借、農業委員会が発行する各種証明書の発行手続に必要となりますので、調査への協力をお願いします。

## 農地台帳整備調査にご協力を

## 農林産物品評会特賞入賞者一覧

茨木市長賞	塩田 寛
茨木市議会議長賞	田所 敏幸
大阪府知事賞	岡野 修司
茨木市農業委員会会長賞	吉田 利光
茨木市農業協同組合長賞	庄田 清子
茨木市農業振興団体連合会会長賞	西野 千恵子
茨木市農協実行組合長連絡協議会会長賞	中西 謙
茨木市林業推進協議会会長賞	長谷川 進一
大阪府農業会議会長賞	笹川 修身
三島地区農業委員会連合会会長賞	大神 平
大阪府農業協同組合中央会会長賞	小林 治夫
全国農業協同組合連合会大阪府本部長賞	稲葉 豊
大阪府信用農業協同組合連合会会長賞	浅川 宏志
全国共済農業協同組合連合会大阪府本部長賞	主馬野 芳隆
大阪エコ農産物「いばらきっ子」賞	猪谷 昭弘
大阪府森林組合長賞	小西 正仁
大阪府農業共済組合組合長理事賞	西村 美加子
大阪府花き園芸連合会会長賞	車川 博子

## 第43回茨木市農業祭

### 新鮮野菜求め賑わう!

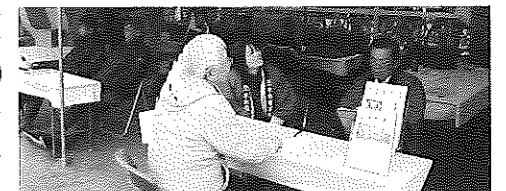
第43回農業祭が、平成29年11月18日(土)、19日(日)の2日間、「都市と農村のふれあいを求めて」をテーマに、市役所前中央公園南・北グラウンドで開催されました。

当日は、農業者の皆さんが丹精込めて育てた新鮮で安全安心な農産物を買求める家族連れなど約3万5千人が訪れました。

また、農林産物品評会には、野菜、果実、穀類、花き等639点の出品がありました。



品評会表彰式



農業委員会による農地相談

り、特賞18点、優秀賞20点、努力賞10点が入賞しました。

なお、特賞に入賞されました方々は、左表のとおりです。

# 農業委員会委員、推進委員担当地区一覧

地域	地区名	担当委員	担当地区(実行組合単位)	区域名	推進委員
北 部	見山	大 上 眞 明	車作、忍頂寺	第1地区	浅 井 薫
		大 神 弘	下音羽、上音羽、長谷、清阪		
		岡 初 美	銭原		
	清溪	上 野 信 一	佐保免山、佐保松谷、佐保馬場、泉原東谷、泉原中垣内、泉原西垣内、泉原下雨、千提寺	第2地区	大 西 清 一
石河	(大 上 眞 明)	大岩、安元、生保、桑原	第3地区	中 西 壽 男	
丘 陵	安威	中 村 正 治	安威南部、十日市	第4地区	上 田 昌 彦
		中 上 隆	安威北部、安威中央、山西		
	福井	西ノ内 壽 昭	福井上、福井中、福井下、中河原		
中 心	三島	小 濱 邦 臣	岩阪、畑、上川原、鳥羽、清水、東村、宿川原東、宿川原西、道祖本東、上平、山ノ下、砂ヶ原	第5地区	村 田 利 明
		吉 田 好	西河原、耳原、太田、三ヶ字	第6地区	森 善 隆
	春日	中 野 稔	茨木(一部)、中穂積、下穂積、奈良、倍賀		
南 部	玉櫛	矢 頭 周	内瀬、水尾、真砂、沢良宜東、沢良宜西、沢良宜浜一丁目、沢良宜浜三丁目、宇野辺、丑寅、蔵垣内	第7地区	辻 清 一
	玉島	宮 本 正 裕	島、野々宮、玉島、平田、目垣、二階堂、五十鈴		
全 域		大 川 智 恵 子	全地区		

## 農業委員会構成

会 長 大 上 眞 明  
副 会 長 小 濱 邦 臣

## 運営協議会

委員 長 大 上 眞 明  
副委員 長 小 濱 邦 臣  
委員 大 川 智 恵 子  
委員 村 田 利 明  
委員 中 野 稔  
委員 谷 山 正 裕  
委員 矢 頭 周  
委員 大 浅 辻 清 一

## 編集委員会

委員 長 大 上 眞 明  
副委員 長 小 濱 邦 臣  
委員 岡 初 美  
委員 宮 本 正 裕  
委員 大 川 智 恵 子  
委員 村 田 利 明

## 都市農政対策委員会

委員 長 宮 本 正 裕  
副委員 長 中 野 稔  
委員 谷 山 正 裕  
委員 矢 頭 周  
委員 大 浅 辻 清 一

## ふるさと農業再生委員会

委員 長 西ノ内 壽 昭  
副委員 長 大 西 清 一  
委員 岡 初 信 正  
委員 中 野 神 上  
委員 大 中 浅 中  
委員 浅 中 上 村 利 明  
委員 大 西 清 一  
委員 岡 初 信 正  
委員 中 野 神 上  
委員 大 中 浅 中  
委員 浅 中 上 村 利 明

※敬称略  
(平成29年7月20日現在)

### 大阪府農業委員会大会開催 〈大阪農業の活性化に向けて〉

平成29年度大阪府農業委員会大会が、10月18日、茨木市農業委員会を含む府内の農業委員、農地利用最適化推進委員等約700人と一般消費者等約110人が参加し、大阪国際交流センターにおいて盛大に開催されました。前年の農業委員会の組織改革により、今年度は、7月に多くの農業委員会が新体制に移行しており、農地利用最適化推進委員の割合も大幅に増加しています。



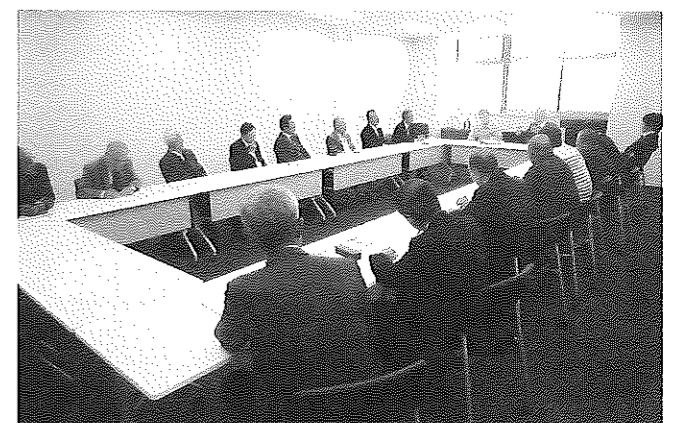
第1部は、大阪府農業会議中谷会長の挨拶があり、担い手不足、農業の意欲低下、遊休農地の発生など農業内部の環境変化により農業が大きな転換期を迎えている中、今一度、農業・農地・経営のあり方を見直し、足下を固めていく取組を根気よく仕掛けていくこと、また、農業委員、推進委員が区別なく一体となり、農地利用の最適化に向けた合意形成に取り組むこと、地域に入り農

業者とともに汗をかく農業委員会へ転換することの必要性を述べられました。続いて、農業委員等永年在任者表彰11人、なにわ農業賞4経営体の表彰の後、天王寺蕪の会事務局長の難波りんご氏から、体験農園参加者等の声などの報告があり、消費者の立場から、今後の農業委員会への期待を熱く語られました。議案審議では、「大阪農業の活性化に向けた要請決議」、「都市農業振興施策の具体化に関する要請決議」、「かけがえのない農地と担い手を守り、活かす『大阪農業リフレッシュ運動』」の推進に関する申し合わせ決議の議案説明があり、それぞれ満場一致で採択されました。第2部は、「農」のある暮らしづくりに向けて」をテーマに、江戸東京・伝統野菜研究会代表の大竹道茂氏が講演をされ、伝統野菜の復活、小学校での種の伝達式、また、野菜コンシエルジュ育成講座の開設などにより、江戸・東京野菜の普及に取り組まれている事例を数多く紹介されました。

当日は、会場入口で大阪の農業、特産品のPRが行われ、参加者全員に、大阪産(もん)能勢栗「銀寄(ぎんよせ)」が手渡され、閉会しました。本市農業委員会は、11月2日、兵庫県洲本市農業委員会を視察しました。洲本市(平成18年2月に五色町と合併)は淡路島の中央部に位置する農業の盛んな地域で、温暖な気候と土壌を生かした農業が行われており、水稲栽培の他、玉葱、レタス、温州ミカン、肉用牛が代表的な特産品となっています。洲本市農業委員会は、平成28年4月に新体制の委員会に移行しており、農業委員と農地利用最適化推進委員の業務をどうするか、どのように連携を図っていくのかを検討され、推進委員の意見や地域の意見を収集、集約していく必要があるとして、農業委員と推進委員が連携した委員会運営を実践されています。洲本市では、集落営農組織が少なく、これまで放牧地で酪農を経営する認定農業者が担い手の中心となってきたが、認定数の鈍化等により規模拡大が困難になってきており、農地の集約、利用集積に向け、担い手の拡大が課題となっている、また、中山間地の未整備農地や10a未満の農地である等、条件が悪い農地が遊休農

また、当日は、全国有数の農業地域である南あわじ市の農畜水産物直売所「美菜恋来屋(みなこいこいや)」に立ち寄り、地域農産物の状況等を視察しました。地の大半を占めていたが、最近では基盤整備実施済み地域でも遊休農地が発生していると説明がありました。本市においても、新たな遊休農地の未然防止が急務となっており、農業委員と推進委員が地域と一体となり、遊休農地所有者への指導、農地中間管理機構との連携を図りながら、遊休農地の解消等農地利用の最適化を推進していく必要性を認識させられました。

### 洲本市農業委員会を視察



洲本市農業委員会研修風景